

資料編 舞鶴市図書館基本計画審議の参考資料

第1章 参考資料 舞鶴市の図書館のいま

- 1-2-② 図書館と類縁施設を知る
- 1-2-③ 舞鶴市の小・中学校と学校図書館を知る
- 1-2-⑤ 舞鶴市の地域拠点と支援施策を知る
- 1-2-⑥ 市民グループから活動と意見を聴く
- 1-2-⑦ 図書館協議会による利用分析と改善提言
 - ◆「令和2年意見書」と「令和3年研究案」
- 1-2-⑧ アンケート調査から市民の声を聴く
 - ◆「1,322人市民の回答」
 - ◆「386の自由記述意見」
- 1-3-② 年間50万冊貸出し44都市の図書館政策を比較する

第2章 参考資料 舞鶴市の図書館のめざすもの

- 2-2-⑤ 小・中学校図書館の充実方策と公共図書館連携支援
- 2-2-⑥ 京都府北部地域の広域図書館連携を推進する

1-2-② 図書館と類縁施設を知る

◆ 舞鶴市郷土資料館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年11月11日(木)午前10:20～

場所：舞鶴市郷土資料館舞鶴ふるさと発見館(西総合館内)

出席：舞鶴市郷土資料館：吉岡館長

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長
 寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○郷土資料館と図書館の資料の持ち合いについて

- ・近世・近代の一次資料は郷土資料館が保管している。
- ・市史編纂で集めた資料のうち、個人蔵のものは持ち主に返却している。
- ・昭和50年に郷土資料館ができるまでの資料は図書館にある。
- ・図書館と郷土資料館では、保存資料の目録を持ち合っているの、連絡はよくとれている。
- ・図書館のレファレンスを郷土資料館に引き継ぐことは頻繁にある。

○資料の保存状況について

- ・30年の間に郷土資料館は3回移転している。
- ・ふるさと発見館の資料庫は湿度管理ができています。
- ・赤レンガ倉庫や廃校になった小学校に保存している資料があるが、保存環境は盤石とはいえない。

○新中央図書館での資料サテライト展示の可能性について

- ・図書館は利用者が多く、サテライト展示は有効だろう。レプリカ展示などで興味を持ってもらい、図書館を入口に郷土資料館の集客に結びつけられるとよい。
- ・50～60㎡程度の企画展示スペースがあれば、郷土資料の企画展示がやりやすい。展示が無いときは市民グループに利用してもらおうとよいのでは。

○糸井文庫、古地図のコレクションについて

- ・古地図のレプリカは図書館で展示可能。(大型地図架などで)図書館には海図もコレクションされているが。
- ・古地図は書籍化、糸井文庫の浮世絵コレクションは電子データ化されている。インターネットでも閲覧可能。

○専門的利用者グループの存在と今後の連携について

- ・「地方史研究会」が公民館で活動している。近世が専門で、郷土資料館の一次資料を利用することもある。
- ・会員の論文や研究成果の目録は電子データ化されていて、図書館とも共有している。
- ・新中央図書館とその資料群の奥に、郷土に係る専門的知見を有する郷土資料館があり、今後も協力連携が重要であると確認された。

※訪問の2週間後のTV「アガーストリー」では、金閣寺炎上、水上勉、舞鶴市につながる事件と縁起について、脚光が当てられていた。



展示・受付の手前には資料コーナーがあり、ヒアリングの間にも閲覧に訪れる利用者がいた。



舞鶴ふるさと発見館 入口のようす



近代までを紹介するパネル展示



日本海交易、城下町の歴史文化を紹介する展示



糸井文庫 浮世絵コレクションはインターネットで閲覧ができる。

◆ 舞鶴市多世代交流施設まなびあむ 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月22日(金)午前11:20～

場所：多世代交流施設まなびあむ

出席：多世代交流施設まなびあむ：福田館長
 市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長
 寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○開館の経緯

- ・東公民館と老人福祉センター「文庫山学園」を移転・統合。
- ・旧市民病院西棟を改修して整備された。令和3年7月開館。

○利用者のようす

- ・開館以来、施設全体の利用者が増え続けている。
- ・施設全体は、平日の昼間の利用が多い。
- ・東図書館が近く、資料少なく、現状図書室の利用は少ない。

○今後の活動について

- ・自主講座の拡充を計りたいという方針がある。
- ・公民館で活動できなかったNPOやボランティアグループにも利用を広げたい。

○障がい者の働く場について

- ・1階カフェはテナントで飲食業者が営業している。
 - ・みずなぎ学園のパン販売が行われている。
- 各事業所がお店を営業していることもあって、公共施設で営業しているところは無い。

○図書・健康促進コーナー

- ・蔵書は図書館の除籍本などが中心で、利用は少ない。
- ・閲覧のみで、貸出は行っていない。
- ・壁付書架、ソファ席とヘルストロンが設置されている。

○今後の図書館のサービス拠点として

- ・現状では、図書室は狭く資料は補強されない。
- ・図書館分館を設置する余裕はなく、拡大も難しい。
- ・図書館資料の予約受け渡しや返却は、不可能ではない。
- ・農協店舗もあり集客力は大きく、余裕のあるロビーを活用するなど図書コーナーの拡大も場をイメージできるが、資料の安全管理や貸出し予約などの「分館としての改変」には課題が多いように観察された。
- ・火災時の避難通路内の不燃化など、法的課題対応が必要。



まなびあむ外観 旧病院である様子がよくわかる。



施設周辺は広々としていて、駐車スペースも充分。BM拠点としても活動がしやすい。



図書・健康促進コーナーの入口



建物2～3階が「まなびあむ」ロビーも広々している。

◆ 舞鶴市子育て交流施設あそびあむ 訪問ヒアリング記録

日時：令和4年1月17日(月)午前10:30～

場所：子育て交流施設あそびあむ

出席：子育て交流施設あそびあむ：野口副所長、根兵保育士
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長
寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○開館の経緯

- ・平成27年4月開館。所管は子育て支援課。

○利用者のようす

- ・新型コロナウイルス感染症発生の前は、年間7万人が利用。
- ・市内外から、多いときで一日400～500人の来館がある。
- ・平日午前中は乳幼児連れの個人利用が多い。
- ・うみべのもり保育所が隣接しているので、平日はお迎え帰りに親子で利用されることも多い。
- ・土日は小学生の利用も多い。

○図書コーナーについて

- ・絵本や子育て関連図書を配架している。展示の冊数は少ない。倉庫に展示していない図書の収蔵がある。絵本は平置きで、季節ごとに選んで配架している。夏休みなどは小学生向けに多くの図書を配架している。
- ・館内閲覧のみで、貸出はしていない。
- ・図書は備品扱いで、蔵書リストあり。毎年購入予算はついている。
- ・図書館からの団体貸出等は受けていない。
- ・年代別のおはなし会を行っている。読み聞かせの担当で、個人的に図書館から本を借りて準備している人もいる。
- ・図書館から貸出を受けるなら、大型絵本などを利用したい。

○将来的な図書館との連携の可能性

- ・ブックスタート、乳幼児検診などとの連携は今のところない。
- ・連携コーディネーターや図書の団体貸出しなど支援が出来るか。
- ・玄関ピロティやボランティア室（集会对応か）などでの自動車図書館サービスの拠点化などが出来れば、東舞鶴海側（旧東公民館サービス地域）のこどもや育児市民層につながる。



動のエリア 小学生程度を対象
遊具など身体を動かして遊べる遊具を置いている。



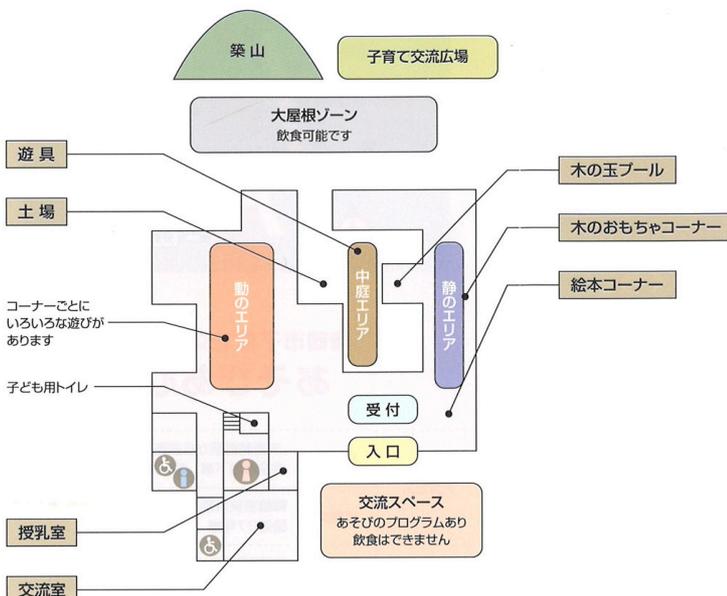
図書コーナー 閲覧のみで貸出はしていない。
絵本や保護者向けの子育て関連図書を配置



広々とした入口・受付回り
入口の外に庇の深い「交流スペース」がある。



深い庇の外部(飲食可)、築山・中庭など外遊びのスペースも充分にとられている。



◆ JR小浜線 ^{まつのおでら}松尾寺駅舎・salon de RURUTEI
訪問ヒアリング記録

日時：令和4年1月18日(火)午前10:00～

場所：JR小浜線 松尾寺駅舎

出席：salon de RURUTEI：片山代表、砂田さん

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○駅舎利用の経緯

- ・松尾寺駅：JR小浜線の無人駅
木造駅舎そのものは機能を失い廃駅化している。
- ・2008年 駅舎がJR西日本から舞鶴市に無償譲渡された。
- ・2009年 舞鶴市の観光交流施設としてオープン。
NPO法人「駅舎と共にいつまでも」が指定管理者となる。
- ・2018年 駅舎が登録有形文化財に指定。
地域の人々の記憶と情緒の中心的なシンボルとなっている。

○salon de RURUTEIについて

- ・松尾寺の門前に日本茶屋「流々亭」として営業していたが、2017年の台風21号の被害で営業ができなくなっていた。
- ・NPO法人「駅舎と共にいつまでも」から業務委託を受けて、2019年に「salon de RURUTEI」を松尾寺駅にオープンした。
- ・新型コロナウイルスの影響で、現在は喫茶を休止しているが、お茶飲料のテイクアウトと「両丹茶」や茶菓子などを販売している。舞鶴市産100%のお茶も販売している。
- ・駅舎は志楽地区の選挙投票所としても利用されている。選挙があるときは、「salon de RURUTEI」も商品展示をかねてスペースを空けている。
- ・地域の高齢者が集まる場所となっている。

○将来的な図書館との連携の可能性

- ・無人化した「地域の生活と歴史の焦点」であった駅舎は、全国的には、地域環境の中心拠点として、再整備・活用される事例が散見されている。
- ・舞鶴市においても、小浜線や京都丹後鉄道の駅拠点について、地域の焦点として「ひとが集まる場の創出」施策が有用になると想像される。そうした先行的事例として松尾寺駅施設の現状があるだろう。
- ・こうした地域再生策の方向性に、新しい図書館サービスが協調して、BM自動車図書館サービスの拠点として具体化出来ないだろうか。駐車場スペースに自動車図書館を停めて、雨や雪や酷暑の季節は、駅舎待合スペースで貸出しや相談、給茶や歓談が行われる情景が想像できる。
- ・ちなみに、松尾寺地域の高齢者の方の図書館利用について話を聞いた。現状では東図書館にバス利用で出掛けられるようだ。東図書館は、最寄りのバス停から距離があり、高齢者は十分程度歩かなければならないという声もあった。
- ・図書館システム再編ののちには、頻度の低い調べ物は図書館に向き、日常の読み物利用は身近なBMでのリクエストや返本、という使い分けが想像できるのではないだろうか。



松尾寺駅外観 2018年登録有形文化財となった。



カフェ「salon de RURUTEI」指定管理者から運営委託



駅舎の待合スペースは広々としている。BM拠点の候補として考えられるか。



観光交流施設部分(現：RURUTEI)は選挙投票所としても利用されている。